

**IBM Content Manager for iSeries**



**Windows クライアント・スタートアップ・ガイド**

**バージョン 5 リリース 1**



**IBM Content Manager for iSeries**



**Windows クライアント・スタートアップ・ガイド**

**バージョン 5 リリース 1**

**ご注意!**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25ページの『付録. 特記事項』にある情報を必ずお読みください。

**注:** この PDF は同じ資料番号のドキュメントを日本語検索可能にしたものです。以前のものと内容に違いはありません。

本書の内容は、新版で特に断りがない限り、IBM Content Manager for iSeries (プロダクト番号 5722-V11) のバージョン 5.1 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。本書は SC34-3138-00 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典： GC27-1135-00  
IBM Content Manager for iSeries  
Getting Started with Client for Windows  
Version 5 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2001.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2001. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2001

# 目次

本書について	v
対象読者	v
本書の編成	v
本書の使い方	vi
表記規則	vi
前提条件および関連情報	vi
製品パッケージに含まれる情報	vi
Web で利用可能なサポート	vii
オペレーション・ナビゲーター	vii
WWW で入手可能な情報	viii

## 第1章 クライアント・アプリケーション

<b>(Windows 版) の紹介</b>	<b>1</b>
このリリースの Windows クライアントの新機能	1
クライアント・アプリケーション (Windows 版) の概 念	3
IBM Content Manager for iSeries システムへの文書の 保管	4
検索情報の追加	5
特定の文書およびフォルダーの検索	5
文書およびフォルダーの処理	6
表示文書の処理	7
文書の印刷	7
クライアント・アプリケーション (Windows 版) の実 装例	7
索引クラスおよびキー・フィールド	8
フォルダー	8
ワークバスケットおよびプロセス	8

## 第2章 Windows クライアントの計画およびインストール

<b>Windows クライアントの計画</b>	<b>11</b>
--------------------------	-----------

クライアント・ツールキットによってカスタマイズ・アプリケーションを作成するための計画	12
Windows クライアントのインストール	12
標準ビューアーによるファイル・フォーマットの サポート	15
追加フォーマットのサポート	15
Content Manager for iSeries の通信システムの構成	16
インストールと構成の検査	18
Windows クライアントのアンインストール	18

## 第3章 クライアント・アプリケーション

### **(Windows 版) の使用**

クライアント・アプリケーション (Windows 版) の 開始	19
ログオン	19
IBM Content Manager for iSeries システムへの文書 の入力	20
スキャン	20
文書またはイメージのインポートおよびエクス ポート	21
「目次 (Table of Contents)」ウィンドウの使用	22
文書およびフォルダーの索引付け	23
文書およびフォルダーの検索	23
ワークバスケット、フォルダー、およびワークフロ ーの使用	23
文書またはイメージの表示および注釈付け	23
文書の印刷	24
ログオフ	24

## 付録. 特記事項

商標	27
----	----

## 索引



---

## 本書について

本書では、IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントを計画およびインストールし、その使用を開始する方法を説明します。クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、IBM Content Manager for iSeries ソリューションを使用して文書の受け取り、分類、使用、保管、および表示を行うためのユーザー・インターフェースが提供されます。Windows クライアントは、次のことを行うために使用します。

- スキャナーまたは外部ファイルから IBM Content Manager for iSeries システムに文書を保管する
- 文書を索引付けして、フォルダーに入れる
- 特定の文書およびフォルダーを検索する
- 文書を表示する
- 文書にコメントまたは強調表示を追加する
- 文書を外部ファイルとしてエクスポートする
- プロセスを通じて文書およびフォルダーの経路を定める

---

## 対象読者

本書は、Windows クライアントの計画や管理、保守を行うか、あるいは Windows クライアントを使用して文書进行处理する場合に使用してください。

本書はエンド・ユーザー向けですが、Windows クライアントのシステム管理者がユーザー用の手順を検討したり、この製品が企業内で効果的に運用されるようにユーザーを支援したりするためにも使用できます。

Windows クライアントは、次のバージョンの Windows® 上で稼働します。

- Windows 98
- Windows NT® 4.0
- Windows 2000
- Windows Millenium Edition

---

## 本書の編成

本書は、以下の章から構成されています。

- 1ページの『第1章 クライアント・アプリケーション (Windows 版) の紹介』では、Windows クライアントの概要を示します。基本概念を紹介し、システムの機能について説明し、実装の例を示します。
- 11ページの『第2章 Windows クライアントの計画およびインストール』は、Windows クライアントの計画およびインストールに役立ちます。
- 19ページの『第3章 クライアント・アプリケーション (Windows 版) の使用』では、Windows クライアントにログオンする方法と、オンライン・ヘルプにアクセスする方法を説明し、Windows クライアントの個々の機能について説明します。

## 本書の使い方

本書は、Windows クライアントで利用できるオンライン・ヘルプを補足し、Windows クライアントの計画、インストール、およびログオン方法を中心に説明します。オンライン・ヘルプには、メニュー項目、ウィンドウ、およびクライアント・アプリケーションのタスクと手順に関する詳細な説明があります。

ヘルプは、すべてのプログラム・ウィンドウおよびタスクで利用できます。ウィンドウに表示されるヘルプの種類は、ヘルプの要求時に選択されている選択項目または実行中のタスクによって異なります。

Microsoft® Windows オペレーティング・システムに精通していない場合は、Windows のオンライン・ヘルプおよびチュートリアルを参照してください。

## 表記規則

本書は、読者が読みやすいように以下の表記規則を使用しています。

規則	意味
太字	ウィンドウ内のコントロール機能およびプッシュボタンの名前
イタリック	<ul style="list-style-type: none"><li>• 本書で初出時に定義される用語</li><li>• ブックまたはその他の資料名</li><li>• 入力フィールドで指定できる情報</li><li>• 入力フィールドでプログラムにより表示される情報</li></ul>

## 前提条件および関連情報

iSeries および AS/400e の技術情報を検索する場合は、まず iSeries Information Center をご利用ください。Information Center にアクセスするには、次の 2 とおりの方法があります。

- Web サイト: <http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>
- お買い上げの Content Manager for iSeries に同梱されている CD-ROM からアクセス

## 製品パッケージに含まれる情報

IBM Content Manager for iSeries CD-ROM には、資料がそれぞれ PDF 形式で収められています。

表1 は、IBM Content Manager for iSeries に含まれている資料を表しています。IBM Content Manager for iSeries を注文すると、IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントも受け取ることになります。また、Windows クライアントを別に要求することもできます。

表1. IBM Content Manager for iSeries 資料

ファイル名	資料名	資料番号
c2711330.pdf	計画とインストール	SC88-4001-00
c2711350.pdf	Windows クライアント・スタートアップ・ガイド	GC88-4003-00

表 1. IBM Content Manager for iSeries 資料 (続き)

ファイル名	資料名	資料番号
c2711360.pdf	システム管理ガイド	SC88-4004-00
c2711370.pdf	メッセージとコード	SC88-4005-00
c2711380.pdf	拡張ワークフロー・ガイド	SC88-4006-00
c2711390.pdf	アプリケーション・プログラミングのガイド とりふれんす	SC88-4007-00

**PDF ファイルをコピーする方法:** PDF ファイルを CD-ROM からハード・ディスクにコピーするには、以下のようにします。

1. 使用している言語のディレクトリー (たとえば、英語の場合は ENU) に変更します。
2. 任意のハード・ディスク・ディレクトリーに \*.PDF ファイルをコピーします。

**PDF 読み取りプログラムのインストール方法:** Adobe Acrobat Reader は <http://www.adobe.com> から入手できます。Acrobat Reader をインストールするには、Acrobat インストール・プログラムの指示か、インストールについて説明しているテキスト・ファイルの指示に従います。

## Web で利用可能なサポート

製品サポートは、Web 上で製品サポートが利用できます。以下の製品 Web サイトから **Support** をクリックします。

<http://www.ibm.com/software/data/cm/>

製品 CD-ROM には、資料がソフトコピーの形で収められています。Web 上の製品の資料にアクセスするには、製品 Web サイト上の **Library** をクリックします。

## オペレーション・ナビゲーター

IBM iSeries オペレーション・ナビゲーターは、iSeries および AS/400e サーバーの管理に適した強力なグラフィカル・インターフェースです。オペレーション・ナビゲーターには、システム・ナビゲーション、構成、計画の各機能、およびユーザーの作業全般に役立つ情報を収録したオンライン・ヘルプなどが組み込まれています。オペレーション・ナビゲーターを使用すると、サーバーの運用と管理が容易になり生産性が向上します。オペレーション・ナビゲーターは、OS/400 オペレーティング・システムの高度な新機能を利用するための唯一のユーザー・インターフェースでもあります。また、複数のサーバーを中央サーバーで集中管理するためのマネージメント・セントラルも装備されています。

オペレーション・ナビゲーターの詳細については、Information Center をご利用ください。

---

## WWW で入手可能な情報

iSeries のさらに詳しい情報は、ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) で入手できます。次の Web サイトにある iSeries ホーム・ページでは、iSeries の一般情報を参照することができます。

<http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/series/>

iSeries の高度な機能に関するワークショップを利用するには、次の Web サイトにある Technical Studio にアクセスしてください。

<http://www.iseries.ibm.com/tstudio>

---

## 第1章 クライアント・アプリケーション (Windows 版) の紹介

IBM Content Manager for iSeries ソリューションは、世界中のコンピューティング・リソースをデスクトップから利用するための最先端のテクノロジーを提供します。IBM Content Manager for iSeries は、電子知的所有権を保護しながら、情報、文書、およびマルチメディア資産を最大限に活用するのに役立ちます。また、IBM Content Manager for iSeries のオープンで、拡張が容易な性質により、各企業のニーズに合わせたソリューションが可能になります。

IBM Content Manager for iSeries クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、システムに文書を取り込み、それらを表示、処理、保管、および検索するためのインターフェースが提供されます。クライアント・アプリケーション (Windows 版) を使用する場合、文書および情報の基本的な流れは次のようになります。まず、システムに文書を保管するために、それをディレクトリーからインポートするか、またはそのページをスキャンして取り込みます。次に、後で文書を識別および検索するのに役立つ情報を使用して、文書に索引を付けます。それ以降は、文書を電子的に他のユーザーに送ることができ、そのユーザーは以下の処理を行うことができます。

- 文書を電子フォルダーに編成する
- 関連する文書およびフォルダーのグループを検索する
- プロセスで文書またはフォルダーを開始する
- さらに処理を行う他のユーザーに文書を送る
- 文書にコメントまたは強調表示を追加する

IBM Content Manager for iSeries システムは、企業のビジネス・ニーズに合わせてさまざまにカスタマイズすることができます。正確なプロセスは、企業でシステムを実装および構成する方法によって異なります。

本書を読む際には、自分にとって使用可能なオプションと実行可能なタスクは、システム構成と、ユーザー ID の特権によって決まることに留意してください。自分にとって実行可能でないタスクが記載されている可能性もあります。使用可能なオプションについては、システム管理者に確認することができます。

『クライアント・アプリケーション』は、カスタムビルトのクライアント・アプリケーションを指すこともあります。ただし、本書では、ほとんどの場合、『Windows クライアント』と『クライアント・アプリケーション (Windows 版)』は同じです。

---

### このリリースの Windows クライアントの新機能

Windows クライアントでは、増え続けるビジネス・ニーズに応じて、機能の増加と改善を続けています。

#### 目次の機能の強化

目次の機能が以下のように強化されました。

- ワークバスケット、検索結果、およびフォルダーにアクセスするための、“エクスプローラに似た”新しいインターフェース。Windows のユーザー

が使い慣れている機能に近いインターフェースが提供され、複数のウィンドウを開かずにフォルダー内を“ドリルダウン”できるようになりました。

- 選択したすべての項目カウントと番号の一覧
- 「選択 (Selected)」メニューと「処理 (Process)」メニューを「アクション (Actions)」メニューにマージする機能
- 新しいコンテキスト (ポップアップ) メニュー

#### 処理に関する新しいダイアログ

##### 「所有者を変更 (Change Owner)」ダイアログ

処理に関する新しいウィンドウ「所有者を変更 (Change Owner)」により、選択したワーク・パッケージの所有権を変更できるようになりました。**注:** 所有権を変更した場合、ユーザー選択のワークバスケットにアクセスすると、自身が所有する (つまり別のユーザーが所有していない) 文書またはフォルダーのみが表示されます。

##### 「活動記録 (History)」ダイアログ

処理に関する新しいウィンドウ「活動記録 (History)」により、選択したワーク・パッケージに関連するすべてのヒストリー・イベントを参照できるようになりました。

##### 「変数を設定 (Set Variable)」ダイアログ

処理に関する新しいウィンドウ「変数を設定 (Set Variable)」により、ボタンをクリックするだけで新しい処理変数を作成できるようになりました。

#### 使いやすさの向上

使いやすさを高めるために、次のような新機能が追加されました。

- 文書をオープンすると索引ダイアログと注釈ダイアログが必ず表示されるように指定できます。
- 索引ダイアログに、直前の使用時のサイズと位置が保存されます。
- オープンしたインポート・ダイアログは、明示的にクローズするまでオープン状態に保たれます。
- 目次のいずれかの項目を再度索引付けすると、目次情報が更新されます。

#### OLE API の拡張

このリリースでは、印刷関連の機能を始めとする新しい拡張機能が提供されています。詳細については、『アプリケーション・プログラミングのガイドとリファレンス』を参照してください。

#### 新しい「属性値リスト」ユーザー出口

新しい「属性値リスト」ユーザー出口を使用すると、管理者は、「索引を編集」ダイアログ・ボックスを拡張してコンボ・ボックス (ドロップダウン・リスト) コントロール機能を組み込むことができます。このようなユーザー出口を実装すると、特定のキー・フィールドについての有効な値だけをリストすることによって、索引付けプロセスを単純化することができます。

#### 目次間のドラッグ・アンド・ドロップ・インターフェースのサポート

クライアント・アプリケーションで、目次間のドラッグ・アンド・ドロップ

プ・インターフェースがサポートされるようになりました。これにより、文書をフォルダー間またはワークバスケット間で移動するための、より自然なインターフェースがもたらされます。

#### ワークバスケットの項目カウントのサポート

ユーザーは、項目カウントを調べたい特定のワークバスケットのセットを表示できるようになりました。多数のワークバスケットがあるサイトでは、これは、一部のワークバスケットに入っている項目の数を知りたいが、すべてのワークバスケットのカウントを入手するためのパフォーマンスの犠牲を払いたくないユーザーにとって役立ちます。

#### 新しい基本検索メモリー機能

「基本検索」ダイアログで、検索に使用された最後の索引クラスが保管されるようになりました。複雑な照会を行ったり、複数のタイプの検索を保管したりすることが必要なユーザーにとっては、拡張検索機能がまだ必要ですが、この機能強化は、しばしば同じ索引クラスによって単純な検索を行うことが必要なユーザーにとって便利です。

#### オブジェクト・ステージング用の新しい検索メニュー項目

磁気テープまたはその他の 2 次ストレージ・メディアに保存されている項目をディスクにステージするための、新しいメニュー項目とアクション・リストが追加されました。

#### 新しい保管場所インディケーター

文書の部分的なデータがどの保管場所にステージされているか、つまり保管場所はディスク上のオブジェクト・サーバーか、磁気テープまたは CD のいずれであるかを示す新しいメニュー項目が、各文書ごとに表示されるようになりました。この保管状況は、目次内の新しい欄に表示されます (この欄の表示はオプションであり、「レイアウト (Layout)」メニューとダイアログで指定できます)。

#### 別の言語のサポート

複数の言語バージョンの Windows クライアントをインストールできるようになりました (インストールした各言語バージョンは、「スタート」メニューの項目として表示されます)。このメニュー項目を使用すると、必要な言語をランタイムに選択できます。

---

## クライアント・アプリケーション (Windows 版) の概念

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、以下の概念を使用します。実際に使用しているシステムにこれらの概念を適用する方法については、7ページの『クライアント・アプリケーション (Windows 版) の実装例』を参照してください。

- 文書
- フォルダー
- 目次
- ワークバスケット
- プロセス

文書 は、保管、検索、および表示が可能な項目です。1 つの文書に、テキスト、イメージ、注釈、およびオブジェクト (スプレッドシート・ファイルなど) を含め、タイプの異なる基本パーツを入れることができます。

フォルダーとは、関連する文書や他のフォルダーをグループ化する手段です。フォルダー内の項目をグループ化すると、検索が容易になります。また、クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、フォルダーを使用してファイル・ルームの検索結果を表示します。システム管理者は、システム内でフォルダーを使用するその他の方法を定義することができます。

目次 (TOC) を使用すると、処理する文書およびフォルダーにアクセスすることができます。目次は、ワークバスケット、フォルダー、あるいは検索結果の内容を表示するウィンドウです。

ワークバスケットは、処理中または処理待ちの文書およびフォルダーの一時的な保管場所です。ワークバスケット内の項目は、キュー内の項目と同様に配列されません。ワークバスケットの定義には、その内容の表示、状況、およびセキュリティを制御する規則が含まれます。システム管理者は、作業を編成するためにワークバスケットを定義することができます。ユーザー選択のワークバスケットを使用すると、目次から文書およびフォルダーを選択することができます。システム割り当てのワークバスケットには、目次がありません。このワークバスケットは、割り当てられた優先順位に基づいて、順次、処理用の項目を表示します。

プロセスは、ワークフロー内で項目が処理される方法を規定する手順および規則のセットです。ワークフローは、フォルダーおよび文書の処理を自動化するシステムであり、文書の個々のエレメントおよびグループの経路を定めるのに必要な手作業の大部分を除去します。プロセスは、経路、コレクション・ポイント、および決定ポイントで構成されます。経路は、項目がプロセス内で移動する方法を記述する一連のステップです。コレクション・ポイントは、プロセス内で、指定のイベントが発生するまで項目が待機するポイントです。決定ポイントは、作業プロセス内で、たどる経路が変数の値によって決まるポイントです。

---

## IBM Content Manager for iSeries システムへの文書の保管

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、文書をデジタル式にスキャンするかまたはファイルとしてインポートすることにより、IBM Content Manager for iSeries システムに文書を取り込むことができます。IBM Content Manager for iSeries は、文書をオブジェクト・サーバーに保管します。このサーバーは、クライアント・アプリケーション (Windows 版) が実行されている各種のワークステーションから、さまざまなレベルのアクセス権限でアクセスすることができます。

スキャナーを使用すると、紙の文書を、クライアント・アプリケーション (Windows 版) 内で保管および処理できる文書イメージに変換することができます。クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、スキャナーの設定を調整し、文書をシステムにスキャンし、スキャンした文書を保管することができます。

クライアント・アプリケーション (Windows 版) を使用すると、ワークステーションまたはローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 上のさまざまなディレクトリーからファイルをインポートすることができます。IBM Content Manager for iSeries システムでは、ファイルをインポートするためのさまざまなデータ・フォーマットがサポートされ、システム管理者は追加のデータ・フォーマットを定義することができます。

また、IBM Content Manager for iSeries から、ワークステーションまたは LAN 上の他のディレクトリーにファイルをエクスポートすることもできます。ファイルをエクスポートすることが必要になるのは、それを別のアプリケーションで使用するかまたは別の場所に移動する場合です。

IBM Content Manager for iSeries システムのライブラリー・サーバーは、リレーショナル・データベース・マネージャーを使用してオブジェクトを管理し、データ保全性を提供します。そのためには、索引情報を保守し、1 つまたは複数のオブジェクト・サーバーに保管されているオブジェクトへのアクセスを制御します。ライブラリー・サーバーは、データベース内の項目を照会、検索、および印刷するための、クライアントからの要求 (オブジェクトの索引およびその他の情報を含む) の宛先を指定します。また、オブジェクトを保管、検索、および削除するために、該当するオブジェクト・サーバーに要求を送ります。

IBM Content Manager for iSeries システムは、ライブラリー・サーバーによって送られた要求を通じて、オブジェクト・サーバー上のオブジェクトを保管および検索します。オブジェクト・サーバーは、システムに保管されたオブジェクトのリポジトリーです。

---

## 検索情報の追加

IBM Content Manager for iSeries システムに保管されている文書を検索するには、それらに事前定義のキー・フィールド の値を割り当てることによって、索引付けをします。個々の文書のほかに、複数の文書を含むフォルダーにも索引を付けることができます。項目に索引を付けるには、索引クラスを選択してから、該当するキー・フィールドにその値を入力します。

索引クラス は、ファイル・ルームに保管されている文書およびフォルダーのグループを識別するカテゴリーです。システム管理者は、企業のビジネス・ニーズに合わせて索引クラスを作成します。それぞれの索引クラスには、キー・フィールドのセットが組み込まれます。キー・フィールドは、「名前」や「社会保障番号」のように、項目を一意的に識別するのに役立つ情報のカテゴリーです。

索引付けの手順は単純ですが、文書またはフォルダーに割り当てる索引付け情報は非常に重要です。この情報は、項目の保管、検索、表示、および処理方法に影響します。

---

## 特定の文書およびフォルダーの検索

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、特定の項目を見つけるためにファイル・ルームを検索することができます。

- 検索基準として索引フィールドの値を指定することにより、1 つまたはすべての索引クラス内で項目を検索することができます。
- 検索基準として処理情報を指定する方法でも、項目を検索できます。

---

## 文書およびフォルダーの処理

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、文書およびフォルダーを処理するための以下のオプションが用意されています。

- チェックアウトおよびチェックイン
- フォルダーまたはワークバスケットへの追加または削除
- ルーティング
- 中断
- 優先順位の変更
- 表示
- 注釈付け
- 削除
- エクスポート
- 印刷

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、「文書およびフォルダーの処理」という表現は、それらを作業のために移動させる方法とその経路、およびそれらが作業対象として使用できるかどうかを指定することを意味します。処理には次のことが含まれます。

### 文書およびフォルダーのチェックアウトおよびチェックイン

文書またはフォルダーをチェックアウトすると、一度に 1 人のユーザーだけがその項目を処理できるように保証されます。項目をチェックアウトすると、他のユーザーはその項目を表示できますが、それに対して処理タスクを実行することはできなくなります。文書をチェックインすると、他のユーザーがそれを処理できるようになります。

### 文書およびフォルダーのワークバスケットへのルーティング

事前定義のプロセスの外側でワークバスケットを使用すると、手動で組織内の作業の経路を定めることができます。自動化されたプロセスにより通常得られる以上の柔軟性を必要とする情報や手順がある場合、プロセスを使わない文書の処理が必要となる可能性があります。随時ルーティング機能を使うと、ワークバスケット間で文書またはフォルダーをルーティングすることができます。たとえば、文書またはフォルダーに関する問題が見つかった場合、その文書またはフォルダーを管理責任者のワークバスケットに送ることができます。文書をシステムに保管する際には、デフォルトのワークバスケットに割り当てることができます。

### 文書およびフォルダーの中断

文書またはフォルダーを中断すると、ユーザーがシステム割り当てのワークバスケットを一時的に処理できなくなります。文書またはフォルダーを指定の日時まで中断することができます。さらに、選択した 1 つまたは複数の索引クラスの文書がフォルダーに追加されるまで、そのフォルダーを中断することもできます。

### 文書およびフォルダーの優先順位の変更

文書またはフォルダーの優先順位を変更すると、システム割り当てのワークバスケットにおけるその処理順序が上または下に移動します。

### プロセスを介した文書およびフォルダーの移動

事前定義のプロセス内でワークバスケットを使用すると、組織内の作業の流れを自動化することができます。ワークフロー・システム内でワークバスケ

ットを使用する場合、作業の流れは、プロセスをセットアップする方法によって決まります。文書またはフォルダーの処理が終了したら、項目をプロセス内の次のステップに移すか、別のプロセスに移動するか、またはプロセスから除去することができます。文書またはフォルダーは、その索引クラスの定義に基づいて、プロセス内で自動的に開始することもできます。

## 表示文書の処理

クライアント・アプリケーション (Windows 版) には、文書イメージを処理するためのさまざまな機能があります。文書自体のテキストやイメージを変更することはできませんが、ジョブを容易にするために表示機能をツールとして使用することができます。

システム管理者から権限が与えられていれば、さまざまな方法で文書に注釈を付けることができます。たとえば、文書の重要な部分に強調表示または注釈を追加することができます。

その他のツールは、1 つの文書または文書のグループの中で必要なページに迅速に移動したり、小さな表示を読み取るために文書の一部をズームイン (拡大) したりするのに役立ちます。

## 文書の印刷

文書の印刷は、その文書を表示中にするか、TOC ウィンドウでその文書を選択すると実行できます。

---

## クライアント・アプリケーション (Windows 版) の実装例

クライアント・アプリケーション (Windows 版) を特定の環境に合わせて調整する方法を示すために、保険会社の支払い請求処理部門の社員が未決の支払い請求についての情報を収集し、それを解決する場合を考えてみましょう。これらのプロセスには、大量の文書処理と、文書および情報の共用が必要です。

既存のプロセスを IBM Content Manager for iSeries システムに転換するために、システム管理者は IBM Content Manager for iSeries 内で次の項目を作成します。

- 索引クラス
- キー・フィールド
- 文書フォルダー
- ワークバスケット
- プロセス

システム管理者は、スキャンまたは索引付けの段階のみを担当する社員のために、制限付きのアクセス権を持つユーザー ID をセットアップすることができます。支払い請求を検討する社員には、注釈の追加および索引情報の変更が許可される (ただし、文書の削除は許可されない)、より大きなアクセス権を与えることができます。また、その他のユーザーに、問題のある支払い請求を解決したり、間違いを訂正したりするための、より広範囲な権限を与えることが必要な場合もあります。

## 索引クラスおよびキー・フィールド

索引クラスは、ファイル・キャビネットのようなものであり、会社の文書が分類されるメイン・カテゴリーを表します。保険会社のシステムには、以下の索引クラスが含まれる可能性があります。

- 支払い請求書
- 査定
- 保険証券
- 事故報告書
- 医療報告書
- 通信文

それぞれの索引クラスには、さまざまなキー・フィールドのセットを含めることができます。たとえば、「査定」クラスの文書には、「姓」、「請求番号」、および「査定額」などのキー・フィールドが含まれる可能性があります。保険会社の社員が特定の査定を検索する必要があるときは、名前、請求番号、または査定額を使用して必要な文書を探します。

システム管理者は、索引クラスのサブセットを定義することができます。個々のユーザーが、索引クラスのすべてのフィールドではなく、いくつかのサブセットにのみアクセスできるようにすることができます。

## フォルダー

クライアント・アプリケーションでは、システムに文書が入力されたら、自動的にそれらを分類してフォルダーに保管することができます。たとえば、システム管理者は、クライアント・アプリケーションを使用して、同じ請求番号で索引付けされたすべての項目を 1 つのフォルダーに自動的に保管することができます。このようにして、クライアント・アプリケーションは、特定の支払い請求に関するすべての文書を自動的にグループ化します。システムの検索の結果をフォルダーに入れることもできます。システム・ユーザーがフォルダーをオープンすると、「目次」ウィンドウ (TOC) にフォルダー内の文書が表示されます。支払い請求の調整担当者またはその他のユーザーは、特定の保険証券ホルダーについての支払い請求を、TOC からアクセスして表示することができます。

## ワークバスケットおよびプロセス

ユーザーは、文書が割り当てられたワークバスケットに従って文書进行处理することができます。新しくスキャンまたはインポートされた文書は、索引付けの担当者が必要な文書を 1 つの場所で探すことができるように、特定のワークバスケットに入れることができます。文書の索引付けが終了したら、作業の流れを制御する事前定義のプロセスで文書を開始することができます。たとえば、支払い請求のプロセスがあるとしたら、このプロセスは、2 つのワークバスケット (支払い請求の処理担当者に割り当てられたワークバスケットと、上級の処理担当者に割り当てられたワークバスケット) から構成される単純な順次処理です。そのプロセスで項目が開始されると、項目は、支払い請求処理の最初のワークバスケットに割り当てられます。支払い請求の処理担当者は、所定の書類の処理を終えると、項目の処理を継続することを選択します。項目は、上級の処理担当者による再検討のために自動的にワークバスケットに送られます。

また、随時ルーティング機能も用意されています。これを使用すると、事前定義のプロセスの外側で作業の経路を定めることができます。支払い請求に問題がある場合、支払い請求の処理担当者は、その請求を管理責任者のワークバスケットに再割り当てすることができます。



## 第2章 Windows クライアントの計画およびインストール

この章では、Windows クライアントの計画およびインストールを行う方法を説明します。Windows クライアントでは、Windows デスクトップから IBM Content Manager for iSeries システムとそのコンテンツへのユーザー・インターフェースが提供されます。クライアント・ツールキットを使用すると、IBM Content Manager for iSeries によって管理されているデータおよびオブジェクトにアクセスする独自のインターネットまたはデスクトップ・クライアント・アプリケーションを作成することができます。計画の過程で、IBM® 担当員にご相談いただければ、計画の考慮事項に関するより詳しい情報を入手することができます。

### Windows クライアントの計画

表2 では、クライアント・アプリケーション (Windows 版) をインストールし、使用するのに必要なハードウェアが定義されています。表3 では、クライアント・アプリケーション (Windows 版) をインストールし、使用するのに必要なオペレーティング・システム、ネットワーキング、およびディスク・スペースがリストされています。

表2. IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントのハードウェア要件

コンポーネント	説明
プロセッサ	Intel Pentium® または同等のプロセッサ
RAM	64 MB 以上
ハード・ディスク	160 MB ハード・ディスク
ディスプレイ	VGA (800x600 解像度、256 色モード)
その他のハードウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>• CD-ROM リーダー (インストールのみ)</li><li>• ネットワーク・アダプター (コンポーネントが複数のワークステーションにインストールされる場合)</li><li>• ASPI 準拠の SCSI アダプターまたはスキャン</li><li>• マウス</li></ul>

表3. IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントのソフトウェア要件

コンポーネント	説明
オペレーティング・システム	次のいずれか: <ul style="list-style-type: none"><li>• Windows 98</li><li>• Windows NT 4.0</li><li>• Windows 2000</li><li>• Windows Millenium Edition</li></ul>
ネットワーク通信	Windows とともにインストールされた TCP/IP

表 3. IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントのソフトウェア要件 (続き)

コンポーネント	説明
ディスク・スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライアント・アプリケーション: 50 ~ 75 MB (選択するコンポーネントによって異なる)</li> <li>ツールキットのみ: 20 MB</li> </ul>
その他	C ランタイム・ライブラリー - クライアント・ツールキットのために必要とされる

## クライアント・ツールキットによってカスタマイズ・アプリケーションを作成するための計画

開発ツールキットを使用すると、クライアント API とユーザー出口ルーチンを利用して、カスタマイズされた IBM Content Manager for iSeries アプリケーションを作成することができます。これらの API を使用すると、以下のことを行うことができます。

- ・ ライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバー内の情報にアクセスする
- ・ 文書処理をカスタマイズする
- ・ 独自のデータ・モデルを設計する

IBM Content Manager for iSeries をインストールして、Developer Studio の Windows への登録を完了する前に、IBM Content Manager for iSeries コンポーネントをインストールするのに使用するユーザー ID と同じユーザー ID から Microsoft Developer Studio を開始しなければなりません。IBM Content Manager for iSeries コンポーネントとともに Visual C++ を使用するには、環境変数の追加のセットアップが必要です。

## Windows クライアントのインストール

インストール・プロセスでは、Windows クライアントの以前のバージョンが自動的に上書きされます。以前のバージョンをバックアップまたはアンインストールする必要はありません。クライアント・アプリケーション (Windows 版) バージョン 5.1 は、バージョン 5.1 サーバーのみと互換性があります。

Windows クライアントをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. オープンしている Windows アプリケーション (ウイルス対策ソフトウェアを含む) があれば、シャットダウンします。
2. CD-ROM ドライブに Windows クライアントのインストール CD-ROM を挿入します。
3. Windows クライアントのインストール CD-ROM を挿入したときにセットアップ・プログラムが自動的に開始されない場合は、それを開始します。
4. 「セットアップ言語の選択 (Choose Setup Language)」ウィンドウがオープンします。システム構成に合った言語を選択してください。
5. 「ようこそ (Welcome)」ウィンドウがオープンします。「次へ (Next)」をクリックします。

6. 「ソフトウェアのご使用条件 (Software License Agreement)」ウィンドウがオープンします。ご使用条件をお読みください。すべての条項を受諾する場合は、「はい」をクリックしてインストールを続行します。そうでなければ、「いいえ」をクリックしてインストール・プログラムを終了します。
7. 「宛先ロケーションの選択 (Choose Destination Location)」ウィンドウがオープンします。インストール・プログラムで定義されたデフォルトの宛先フォルダーのパスを受け入れるには、「次へ (Next)」をクリックします。宛先フォルダーのディレクトリーとして別のパスを定義するには、「ブラウズ (Brows)」をクリックします。

**注:** 前のバージョンの製品がインストールされている場合、インストール・プログラムは前のバージョンの場所を検出し、その同じフォルダーにバージョン 5.1 をインストールするかどうかを確認します。

8. デフォルトのコンポーネントが事前に選択された状態で、「コンポーネントの選択」ウィンドウがオープンします。以下のリストでは、クライアント・アプリケーション (Windows 版) のすべてのコンポーネントを示します。ツールキットおよびスキャンをインストールするには、これらのコンポーネントの横にあるチェック・ボックスをクリックします。「次へ (Next)」をクリックします。

#### **クライアント・アプリケーション (Client Application)**

IBM Content Manager for iSeries システム内で文書およびフォルダーを処理するクライアント・アプリケーションをインストールします。

#### **ビューアー (Viewer)**

クライアント・アプリケーションは、文書を表示するためにビューアーを必要とします。標準ビューアーは、19 種類のファイル・フォーマットで作成されたイメージおよびテキスト文書を解釈し、表示することができます。15ページの『標準ビューアーによるファイル・フォーマットのサポート』では、ビューアーによってサポートされるファイル・フォーマットがリストされています。

#### **追加フォーマット (Additional formats)**

追加の非イメージ・ファイル・フォーマットを表示するには、このオプション・サブコンポーネントをインストールしてください。15ページの『追加フォーマットのサポート』では、追加フォーマット・サポート・サブコンポーネントを選択した場合に表示できる、追加のファイル・フォーマット・タイプがリストされています。

#### **追加言語 (Additional languages)**

このサブコンポーネントは、クライアント・アプリケーション (Windows 版) の複数の言語バージョンを追加する場合に選択します。「次へ (Next)」をクリックすると、必要な言語バージョンを指定する画面が表示されます。

#### **スキャン (Scanning)**

このオプション・サブコンポーネントを選択すると、Windows クライアントを使用して Content Manager for iSeries に直接文書をスキャンするためのインターフェースとソフトウェアがインストールされます。

#### **共通ファイル (Common files)**

共通ファイルは、クライアント・アプリケーションや、その他の

Content Manager for iSeries クライアント・プログラムによって必要とされるユーティリティとコンポーネントです。

### ツールキット (Toolkit)

ツールキットは、カスタム・プログラムを作成するための機能を備えた API のセットです。このツールキットには、作成したアプリケーションのコンパイルとリンクに必要なファイルが含まれています。また、数種類のサンプル・アプリケーションも組み込まれています。

9. インストール・プログラムによって FRNOLINT.TBL ネットワーク・テーブルが検出されない場合、「サーバー接続情報」ウィンドウがオープンします。ネットワーク・テーブルが検出されると、このステップはスキップされます。ネットワーク・テーブルが検出されない場合は、次のいずれかのオプションを選択してください。
  - 新規ネットワーク・テーブルの生成 (Generate a new Network Table.)
  - 既存ネットワーク・テーブルのコピー (Copy an existing network table.)
  - 後でネットワーク・テーブルを生成 (Generate a Network Table later.)

### 新規ネットワーク・テーブルの生成 (Generate a new Network Table.)

新しいネットワーク・テーブルを生成するには、「TCP/IP」または「APPC」を選択します。

「TCP/IP」を選択した場合は、「サーバー名 (Server Name)」、「ホスト名 (Host name)」、および「ポート番号 (Port number)」にデフォルトの設定値が表示されます。

「APPC」を選択した場合は、サーバーの「LU 名 (LU name)」と「TP 名 (TP name)」にデフォルトの設定値が表示されます。

提示されたデフォルトの設定値を受け入れるには、「次へ (Next)」をクリックします。

### 既存ネットワーク・テーブルのコピー (Copy an existing network table.)

クライアント・アプリケーション (Windows 版) の前のバージョンからネットワーク・テーブルのバックアップ・コピーを作成した場合は、「新規ネットワーク・テーブルのコピー元 (Copy Network Table from)」をクリックし、「ブラウズ (Browse)」をクリックして、以前に保管した FRNOLINT.TBL ファイルを見つけます。

### 後でネットワーク・テーブルを生成 (Generate a Network Table later.)

インストールの完了後にネットワーク・テーブルを生成するには、「後でネットワーク・テーブルを生成 (Generate a Network Table later)」をクリックします。

10. 「プログラム・フォルダーの選択 (Select Program Folder)」ウィンドウがオープンします。デフォルトのプログラム・フォルダー・パスを受け入れるには、「次へ (Next)」をクリックします。必要であれば、「既存のフォルダー (Existing Folders)」リストからプログラムを選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
11. 「ファイルのコピーの開始 (Start Copying Files)」ウィンドウがオープンします。インストール・プログラムにより、クライアント・アプリケーション (Windows 版) プログラム・ファイルのコンピューターへのコピーが開始されません。

## 標準ビューアーによるファイル・フォーマットのサポート

以下に、標準ビューアーをインストールする場合にサポートされるファイル・フォーマットを示します。

1. ASCII
2. ビットマップ
3. DCX (FAX)
4. EBCDIC
5. GIF
6. HTML
7. IOCA FS11 (IBM のイメージ・オブジェクト・コンテンツ・アーキテクチャー - 機能セット 11)
8. JPEG
9. Lotus<sup>®</sup> 1-2-3<sup>®</sup>
10. Microsoft Excel (バージョン 2.1、3.0、4.0、5.0、7.0)
11. Microsoft Word (DOS バージョン 3.0、4.0、5.0、5.5、6.0、Windows バージョン 1.0x、2.0x、6.0x、7.0、'97、Macintosh バージョン 3.0、4.0、5.0、5.1、6.0)
12. MO:DCA (IBM の混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー)
13. PCX (ペイントブラシ)
14. PDA (Calera の Processed Document Architecture)
15. PDF (Adode の Portable Document Format)
16. PNG (Portable Network Graphics)
17. RTF
18. TIFF
19. WordPerfect (DOS バージョン 4.1、4.2、5.0、5.1、6.0、6.1、Windows バージョン 5.1、5.2、6.0、6.1、Macintosh バージョン 1.0、2.0、2.1、3.0、3.1、3.5)

## 追加フォーマットのサポート

以下のファイル・フォーマットを表示するには、追加フォーマット・サブコンポーネントをインストールします。

1. Ami Pro for Windows バージョン 1.1、1.2、2.0、3.0、3.1、Ami Pro for OS/2<sup>®</sup>
2. Digital DX、WPS-Plus
3. Display Write V2、V3、V4、V5
4. Enable ver 1.2、2.0、2.15
5. Framework III バージョン 1.0、1.1、Framework IV
6. DCA - 最終形式テキスト
7. HP AdvanceWrite Plus
8. IBM Writing Assistant バージョン 1.0
9. Interleaf Publisher バージョン 1.1、5.2 ASCII、6.0 ASCII
10. Legacy バージョン 1.x、2.0
11. Lotus Manuscript バージョン 2.0、2.1
12. MacWrite バージョン 4.5、4.6、5.0、MacWrite II バージョン 1.0、1.1

13. MASS 11 バージョン 8.0、8.3、8.5 ～ 9.0
14. Multimate 3.3 ～ 4.0、Multimate Advantage 3.6、Multimate Advantage II 3.7
15. OfficeWriter バージョン 4.0、5.0、6.0、6.1、6.2
16. PeachText 5000 バージョン 2.12
17. PFS:First Choice バージョン 1.0、2.0、3.0
18. Professional Write バージョン 1.0、2.0 ～ 2.2
19. Q Write バージョン 1.0、3.0、4.0
20. Quattro Pro バージョン (DOS) 4.0、(Windows) 1.0、5.0
21. Rapid File バージョン 1.0、1.2
22. 変更可能テキスト (RFT)
23. Total Word バージョン 1.2、1.3
24. Uniplex onGo
25. Volkswriter バージョン 2.2、3、4
26. Wang PC バージョン 3.0
27. Windows ライト バージョン 3.0、3.1
28. WordStar バージョン (DOS) 3.3、3.31、3.45、4.0、5.0、5.5、6.0、7.0、(Win) 1.x、2.0
29. WriteNow バージョン 3.0
30. XyWrite III、XyWrite III Plus、XyWrite IV、XyWrite for Windows バージョン 1.0、4.0

---

## Content Manager for iSeries の通信システムの構成

Content Manager for iSeries 環境での通信には、拡張プログラム間通信機能 (APPC) または伝送制御プロトコル / インターネット・プロトコル (TCP/IP) が適しています。

APPC を使用して通信するには、APPC および共通プログラミング・インターフェース・コミュニケーション (CPI-C) を実装する通信製品をインストールし、構成する必要があります。たとえば、eNetwork パーソナル・コミュニケーション、または Client Access/400 などの製品が適切です。

TCP/IP を通信プロトコルとして選択した場合は、TCP/IP ソケットの通信サポートが使用されます。クライアントが TCP/IP を使用して通信できるようにするには、サーバーのバックグラウンド・ジョブをそのサーバー上で開始する必要があります。

Content Manager for iSeries は、ネットワーク・テーブル・ファイル と呼ばれる ASCII ファイルを使用して、サーバーとの通信に必要なすべての情報にサーバー名をマップします。このテーブルは、当初は Windows クライアントのインストール時に生成されます。ネットワーク・テーブル・ファイルの編集は、任意のテキスト・エディターで行うことができます。ネットワーク・テーブル・ファイルを多数のユーザーの共用にするには、各ワークステーションで環境変数 VI400\_CONFIG\_PATH を定義します。

### APPC のネットワーク・テーブル・エントリーの例

```
SERVER: AS400DS1 REMOTE TCPIP
LU_NAME      = USIBMNR.AS400DS1
TP           = EKDCS01P.QVI
MODE         = QPCSUPP
SERVER_TYPE  = FRNLS400
```

説明:

<i>AS400DS1</i>	Content Manager for iSeries サーバーの名前。これは、Content Manager for iSeries クライアントのログオン時に表示されます。
<i>USIBMNR.AS400DS1</i>	論理装置 (LU) の完全修飾名。この位置は、ご使用の通信製品の CPI-C セクションに、パートナー LU 名として構成する必要があります。
<i>EKDCS01P.QVI</i>	実行するトランザクション・プログラム (TP) 名。EKDCS01P は、Content Manager for iSeries サーバーのインターフェースを開始するプログラムの名前です。QVI は、このプログラムが保管される iSeries ライブラリーの名前です。
<i>QPCSUPP</i>	使用するモード名。クライアント・アクセス/400 をインストールした場合は、このモード名をワークステーションと iSeries の双方で使用できます。モード名は、APPC セッションの接続特性を制御します。
<i>FRNLS400</i>	Content Manager for iSeries ライブラリー・サーバーの名前。この行は、記載されているとおりに入力する必要があります。

#### TCP/IP のネットワーク・テーブル・エントリーの例

```
SERVER: AS400DS1 REMOTE APPC
HOSTNAME    = 9.112.17.167
PORT        = 31015
SERVER_TYPE = FRNLS400
```

説明:

<i>AS400DS1</i>	Content Manager for iSeries サーバーの名前。これは、Content Manager for iSeries クライアントのログオン時に表示されます。
<i>9.112.17.167</i>	サーバーのホスト名または IP アドレス。ホスト名や IP アドレスが有効かどうかを検査するには、PING コマンドを実行します。
<i>31015</i>	TCP/IP に対するアプリケーション識別情報となるポート番号。ここに定義するポートは、バッチ・サーバー・ジョブに使用されるポートと一致していなければなりません。詳細については、マニュアル『計画とインストール』の「TCP/IP の構成」セクションを参照してください。

Content Manager for iSeries ライブラリー・サーバーの名前。この行は、記載されているとおりに入力する必要があります。

---

## インストールと構成の検査

Content Manager for iSeries クライアントのインストールが完了したら、出荷時の Content Manager for iSeries に組み込まれている VI400VIFY プログラムを実行して、構成が適切かどうかを検査することができます。検査を行うには、Content Manager for iSeries のプロファイルに事前定義されている QVIADMIN などのユーザー ID を使用する必要があります。

VI400VIFY のプロンプトに従ってユーザー ID、パスワード、およびシステム名を入力すると、VI400VIFY は Content Manager for iSeries サーバーにログオンして項目とオブジェクトを作成し、次にその項目とオブジェクトを削除した後でログオフします。エラーがあった場合は、その情報が VI400.LOG に記録されます。このプログラムを実行することにより、APPC、TCP/IP、Client Access/400、ネットワーク・テーブル、および Content Manager for iSeries の共用フォルダーへのアクセスの構成を検査できます。また、指定したユーザーが、所定の操作を行うのに十分な権限と共に、Content Manager for iSeries に対して定義されているかどうかを確認することができます。

出荷時の Content Manager for iSeries の iSeries フォルダーに格納されているサンプル・プログラム VI400VIFY.CPP は、ユーザー独自の検査プログラムを作成するためのテンプレートとして使用することもできます。

---

## Windows クライアントのアンインストール

Windows クライアントをアンインストールするには、Windows の「アプリケーションの追加と削除」を使用します。

「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「アプリケーションの追加と削除」をクリックし、画面上のプロンプトに従ってください。

---

## 第3章 クライアント・アプリケーション (Windows 版) の使用

この章では、クライアント・アプリケーション (Windows 版) を開始し、ログオンする方法を説明します。さらに、1ページの『第1章 クライアント・アプリケーション (Windows 版) の紹介』に記載されている製品の機能を使用する方法を詳しく説明します。

---

### クライアント・アプリケーション (Windows 版) の開始

Windows からクライアント・アプリケーションを開始するには、「スタート」→「プログラム」→「IBM Content Manager for iSeries for Multiplatforms」→「クライアント・アプリケーション (Client Application)」を選択します。

プログラムのロード中に他の操作を実行しないでください。プログラムとその環境をロードするには、数秒間かかります。

ログオンの前に、システム管理者によってユーザー ID とパスワードが各ユーザーに割り当てられていなければなりません。さらに、ライブラリー・サーバーとオブジェクト・サーバーがシステム上で使用可能になっていなければなりません。この情報について不明な点があれば、システム管理者に確認してください。

クライアント・アプリケーション (Windows 版) のログオン・ウィンドウがオープンします (その後ろにはメイン・ウィンドウが隠れています)。始動時、有効なユーザーがログオンするまで、メイン・ウィンドウのオプションは使用不可になっています。

---

### ログオン

ログオンするには、ユーザー ID とパスワードを入力し、クライアント・アプリケーション (Windows 版) の開始後にライブラリー・サーバー名を選択します。

1. 該当するライブラリー・サーバーにログオンしようとしていることを確認します。通常、システム管理者によってデフォルトのライブラリー・サーバーが設定されています。「サーバー」フィールドに、ログオンしようとしているサーバーが表示されていない場合は、「サーバー」ドロップダウン・ボックスをクリックし、正しいライブラリー・サーバーを選択します。
2. ユーザー ID を入力します。ユーザー ID は、システムに対してユーザーを一意的に識別するものです。
3. パスワードを入力します。パスワードを変更したい場合は、「変更」をクリックします。パスワードを確認した後、「OK」をクリックしてそれを保管します。パスワードの変更を取り消すには、「キャンセル」をクリックします。
4. Enter キーを押すか、または「OK」をクリックします。ウィンドウの左下隅にあるステータス・バーにより、ログオンが進行中であることが示されます。ログオンが正常に終了すると、メイン・ウィンドウがオープンします。

「キャンセル」をクリックし、メイン・ウィンドウで「ファイル」→「終了」を選択すると、ログオンせずに終了することができます。

## IBM Content Manager for iSeries システムへの文書の入力

IBM Content Manager for iSeries システムに文書を入力するには、クライアント・アプリケーション (Windows 版) を使用して、それらの文書をスキャンまたはインポートします。

### スキャン

スキャンされた文書は、オブジェクト・サーバーに保管される前に、一時的にワークステーションのハード・ディスクに書き込まれます。通常、それらは `FRNROOT\WORK` サブディレクトリーに書き込まれます。このディレクトリーが存在するドライブに十分な空きディスク・スペースがあることを確認してください。スキャンされた文書がオブジェクト・サーバーに正常に保管されると、これらの一時ファイルは直ちに消去されます。

文書は、1 インチ当たり 200 ドット以下の解像度でスキャンして保管することをお勧めします。これによって、より高いパフォーマンスが得られ、また、高解像度でのスキャンにより生じる可能性があるメモリー不足を防ぐことができます。

新しいスキャナーを初めて使用する場合、以下のようにしてスキャナー・ドライバーをロードする必要があります。

1. メイン・ウィンドウのメニュー・バーの「**ファイル (File)**」メニューから、「**スキャン (Scan)**」を選択します。「ドライバー名のロード」というダイアログが短時間オープンします。次に、「スキャナー選択」ウィンドウがオープンします。
2. リストからスキャナーを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

スキャナーを最初に使用する前に、ASPI レイヤーを更新することが必要な可能性があります。これを行うには、コマンド・プロンプトで、Windows ディレクトリーの下の `\PIXTRAN\ASPI` から `aspi32.exe` ユーティリティーを実行します。その後、同じディレクトリーから `aspchk.exe` ユーティリティーを実行することによって、あるいは Windows の「コントロール パネル」で「デバイス」をオープンし、`aspi32` デバイスの横に「起動済み」という語が示されているかどうかを調べることによって、ASPI レイヤーが正常に更新されたことを確認することができます。

### 特定のスキャナーに関する考慮事項

#### HP スキャナー

Windows 98 で HP スキャナーを使用する場合は、HP 製の特殊なスキャナー・ドライバーが必要です。必要なドライバーの詳細については、IBM サポートにお問い合わせください。

#### IBM Pentium PC 750 に接続した IBM 2456 スキャナー

IBM Pentium PC 750 に接続した IBM 2456 スキャナーを使用する場合には、スキャナーが EPROM レベル 1R0G 以上であることを確認してください。

### スキャンのデータ・フォーマット

大きな文書 (50 ページを超えるもの) をスキャンする場合は、TIFF6 または MODCA2P のいずれかのデータ・フォーマットを使用することをお勧めします。

12 ビット・カラー・データ・フォーマットを使用してスキャンを行わないでください。現在サポートされているのは、24 ビット・カラー・スキャンのみです。

以下に、スキャンについてサポートされるデータ・フォーマットを示しますが、スキャナーによっては、サポートされないその他のスキャン・モードがあり、予測外の結果が生じる可能性があります。クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、以下のスキャン・データ・フォーマットがサポートされます。

**注:** Windows NT では、GIF フォーマットはサポートされません。

フォーマット	サポートされるスキャン・モード
DCX	単色 (2 階調)
GIF	単色 (2 階調)
	16 グレースケール
	256 グレースケール
	24 ビット・カラー
JPEG	16 グレースケール
	256 グレースケール
	24 ビット・カラー
MODCA2P	単色 (2 階調)
	16 グレースケール
	256 グレースケール
	24 ビット・カラー
PCX	単色 (2 階調)
	16 グレースケール
	256 グレースケール
TIFF6	単色 (2 階調)

## Windows のもとでの IBM 2456 および Ricoh 410 スキャナーの使用

Windows のもとで IBM 2456 スキャナーまたは Ricoh 410 スキャナーを使用して、問題が発生した場合は、次の情報を入手するために、IBM 担当員にご連絡ください。

- スキャナーの要件
- SCSI カードの要件
- サポートされるスキャナー ROM のバージョン
- スキャナーの終端およびインピーダンスの要件
- WINASPI ドライバーの情報
- Adaptec 1542C および IBM2456 の情報

## 文書またはイメージのインポートおよびエクスポート

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、さまざまな種類のファイルを IBM Content Manager for iSeries システムとの間でインポート / エクスポートすることができます。ワード・プロセッサやスプレッドシートのようなアプリケーション用のファイルを含め、さまざまな文書ファイル・フォーマットのファイルを処理することができます。

### インポート

クライアント・アプリケーション (Windows 版) を使用すると、ワークステーションまたはローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 上のさまざまなディレクトリーか

ら IBM Content Manager for iSeries システムにファイルをインポートすることができます。システムでは、インポートされるファイルについてさまざまなデータ・フォーマットがサポートされ、システム管理者は追加のデータ・フォーマットを定義することができます。

インポートを始める前に、ファイルに関する次の情報を知っておく必要があります。

- ファイルの名前
- ファイルが置かれている場所
- ファイルのフォーマット
- ファイルをライブラリーに保管する以外に、特定のワークバスケットに入れる必要があるかどうか

この情報のいずれかについて不明な点があれば、始める前にシステム管理者に連絡してください。

## エクスポート

また、IBM Content Manager for iSeries システムに保管されているファイルを、ワークステーションまたは LAN 上の別のディレクトリーにエクスポートすることもできます。他のアプリケーションで使用したいファイル、または別の場所に移動したいファイルをエクスポートすることができます。ファイルをエクスポートする前に、次の情報を知っておく必要があります。

- ファイルをエクスポートする場所
- ファイルに関連する注釈ログまたは注釈情報を組み込むかどうか

また、ファイルのエクスポート後にそれらを確実に識別できるようにするために、ファイルのエクスポート時にクライアント・アプリケーションで使用される命名手順を理解しておくことが重要です。ファイルをエクスポートするとき、クライアント・アプリケーションは、ファイルの内容とフォーマットに基づいてファイル名とファイル拡張子を割り当てます。割り当てられる名前は固有です。

---

## 「目次 (Table of Contents)」ウィンドウの使用

「目次 (Table of Contents)」ウィンドウでは、文書またはフォルダーのリストが表示されます。クライアント・アプリケーション (Windows 版) は、フォルダー、ワークバスケット、または検索結果のリストをオープンするときに、「目次 (Table of Contents)」ウィンドウを使用してフォルダーおよび文書のリストを編成します。

「目次 (Table of Contents)」ウィンドウは、処理したい文書およびフォルダーを選択するために使用します。

「目次 (Table of Contents)」ウィンドウでは、Windows Explorer スタイルのビューで結果が表示されます。画面左側のナビゲーション・パネルでは、この目次にあるワークバスケットおよびフォルダーが表示されます。他のオブジェクトを含む可能性がある項目は、横に + 記号が付けられます。たとえば、ワークバスケットの横の + 記号をクリックすると、そのワークバスケット内のすべてのフォルダーがワークバスケットの下に表示されます。

---

## 文書およびフォルダーの索引付け

IBM Content Manager for iSeries は、図書館の機構に似た働きをします。図書館では、本やその他の印刷物が、それに割り当てられた固有の場所に保管されます。図書館に保管されているすべての情報は、カタログを使用して見つけることができます。カタログでは、著者、題名、出版社、および物理的な置き場所によって印刷物に索引が付けられます。IBM Content Manager for iSeries では、索引クラスを通じてこのカタログ機能が提供されます。

キー・フィールドは、文書に関して保管される情報です。索引クラスは、キー・フィールドの集合です。キー・フィールドは、属性から構成されます。たとえば、「保険証券」という名前の索引クラスには、「保険証券番号」、「保険証券所有者」、「保険料支払い期日」などの属性名が含まれる可能性があります。システム管理者は、索引クラスのサブセットを定義することができます。個々のユーザーが、索引クラスのすべてのフィールドではなく、いくつかのサブセットにのみアクセスできるようにすることができます。

---

## 文書およびフォルダーの検索

IBM Content Manager for iSeries では、「検索」コマンドを使用して文書およびフォルダーを見つけます。検索を実行するには、ある索引クラスの中で、1 つまたは複数の索引キー・フィールドの特定のデータを探します。基本および拡張検索を行うことができます。たとえば、支払い請求書 クラスでは、John Smith という顧客に関係するすべての支払い請求書や、John Smith に関係する 1995 年のすべての支払い請求書を検索することができます。また、特定の顧客に関係するすべての文書を見つけるために、全索引クラス を検索することもできます。

---

## ワークバスケット、フォルダー、およびワークフローの使用

ワークフローでは、項目のルーティングに使用される事前定義の作業プロセスを作成することにより、作業の流れを自動化します。このプロセスでは、ワークバスケットを通じて項目にアクセスし、項目を処理することができます。また、随時ルーティング機能も用意されているため、ワークフローにより、事前定義の作業プロセスの外側で作業の経路を定めることができます。この機能を使用すると、事前定義のプロセスを使用せずに、直接ワークバスケットに項目を追加することができます。

---

## 文書またはイメージの表示および注釈付け

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、スキャンまたはインポートされた文書またはイメージを表示し、それに注釈を付けることができます。たとえば、送り状をスキャンした後、その送り状を選択して表示します。その後、注釈ツールを使用して、あるセンテンスまたはパラグラフを強調表示することができます。注釈ツールを使用する場合、スキャンされたファイルは変更しません。

---

## 文書の印刷

クライアント・アプリケーション (Windows 版) では、目次から文書を印刷することもできますし、文書ウィンドウでオープンしているものを印刷することもできます。また、目次全体、あるいはフォルダーに含まれているすべての文書を印刷することもできます。印刷のオプションは、「項目を印刷 (Print Item)」ウィンドウで選択します。

文書を印刷する際には、それに関連する注釈、索引情報、または注釈ログを印刷することができます、選択したページを印刷することができます。

---

## ログオフ

次のいずれかの方法で、クライアント・アプリケーション (Windows 版) からログオフすることができます

- 「ファイル」メニューから「終了」を選択する
- ウィンドウの左上隅にあるシステム・メニュー記号をダブルクリックする
- システム・メニューから「クローズ」を選択する
- ウィンドウの右上隅にある **X** ボタンをクリックする

オープンしているすべてのプログラム・ウィンドウがクローズされます。

---

## 付録. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラム、またはサービスに代えて、IBM の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の操作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書の提供は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31  
AP 事業所  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に対して、周期的に変更が行われ、これらの変更は、文書の次版に組み込まれます。IBM は、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J74/G4  
555 Bailey Avenue  
P.O. Box 49023  
San Jose, CA 95161-9023

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBMより提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。また、IBM 以外の製品に関するパフォーマンスの正確性、互換性、またはその他の要求は確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。これらの例は、すべての場合について完全にテストされたものではありません。

ません。IBM はこれらのプログラムの信頼性、可用性、および機能について法律上の瑕疵担保責任を含むいかなる明示または暗示の保証責任も負いません。

---

## 商標

以下のものは、IBM Corporation の米国およびその他の国における商標です。

IBM  
iSeries OS/2  
Net.Data

Lotus および 1-2-3 は、Lotus Development Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。(Intel の商標の完全なリストについては、[www.intel.com/sites/jp/tradmarx.htm](http://www.intel.com/sites/jp/tradmarx.htm) を参照してください。)

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。



# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

インストールと構成

    検査 18

インポート 21

エクスポート 22

## [カ行]

解像度, スキャンの 20

概念, クライアント・アプリケーション

    (Windows 版) 3

クライアント・アプリケーション

    (Windows 版)

        概念 3

        実装の例 7

        ログオフ 24

        ログオン 19

計画

    構成 11

検査, インストールと構成 18

検索

    概説 5

構成

    インストールの検査 18

## [サ行]

索引付け

    概説 5

実装の例 7

新機能 1

スキャン

    概説 4

    推奨される解像度 20

    スキャナーに関する考慮事項 20

    データ・フォーマット 20

## [タ行]

通信

    構成 16

通信システムの構成 16

データ・フォーマット, スキャンの 20

特記事項 25

## [ナ行]

入力, 文書の

    インポート 21

ネットワーク・テーブル・エントリーの

    例, APPC の場合 16

ネットワーク・テーブル・エントリーの

    例, TCP/IP の場合 17

## [ハ行]

ファイル・ルーム

    概説 3

フォルダー

    ワークバスケットへのルーティング 6

文書

    インポート 21

    エクスポート 22

    ワークバスケットへのルーティング 6

文書およびフォルダーのルーティング 6

本書について v

保険会社の例 7

## [ヤ行]

ユーザー ID 12

優先順位の変更, 文書およびフォルダー

6

## [ラ行]

例, 実装の 7

ログオフ 24

ログオン 19

## [ワ行]

ワークバスケット

    文書およびフォルダーのルーティング

6

## A

APPC

    ネットワーク・テーブル・エントリー

    の例 16

## H

HP スキャナー 20

## I

IBM 2456 スキャナー 20

## M

Microsoft Developer Studio 12

## T

TCP/IP

    ネットワーク・テーブル・エントリー

    の例 17







プログラム番号: 5722-V11

Printed in Japan

GC88-4003-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12